



私たちの神学的座標軸

— 歴史神学軸(横軸) —

2005.4.21

KBI三年生講義

—宮基督教研究所

安黒務



Who am I ?

- 私たちは
 - 神学的に
 - 一体いかなる者であるのか
- 自己評価する
 - 神学的座標軸を
 - 探求する
- 神学的座標軸
 - 歴史神学軸－「福音主義キリスト教と福音派」「総説 現代福音主義神学」
 - 組織神学軸－「キリスト教神学」「基督教教理入門」



KBIとJECの関係

- KBI?
 - JECの流れを中心としつつ、
 - 関連諸教会の協力により運営
- KBIとJEC
 - KBI=JECではないが
 - KBI>JEC
- JEC
 - JECの流れを知ることにより
 - KBIの特徴をより深く知ることができる
 - JECを知り、KBIを知り、そして自分自身を知る
 - (特定の群れを強調することは、本意ではないが、「JEC理解なしに、KBI理解なし」ともいえる)



序：重要な三つの要素

1. 神学的・教理的要素
2. 歴史的要素
3. 社会的・文化的要素



序：ルーツについて

1. 一例として

1. JEC→スウェーデン・オレブロ・ミッション(インターアクト)→スウェーデン・バプテスト諸教会
2. SB→アメリカ・バプテスト→会衆派ピューリタン(英国宗教改革)
3. 宗教改革→古代の正統信仰→初代教会の信仰→キリストの死・葬り・復活の事実

2. レポート試験問題

1. 教会史二千年を振り返って各自の教会・教派の歴史的・神学的ルーツを整理して、説明しなさい。



使徒的キリスト教としての

1. 聖書における創造・福音の記述
2. 神話・創作とみる立場
3. 事実の記述・描写とみる立場



古代教会の正統信仰としての

1. 異端：主要教理の軽視
2. 正統：公同性、古代性、一致同意
 1. 三位一体論
 2. 神人二性一人格論



宗教改革の子孫としての

1. 中世カトリックを背景にした宗教改革
2. 改革の三大原理
 1. 聖書のみ
 2. 信仰義認
 3. 聖徒の交わりとしての教会



英国プロテスタントからの分岐と しての

1. ルター派、カルヴァン派、アナバプテスト派、英国のプロテスタント
2. 英国のプロテスタント(ピューリタン運動)
3. 会衆派ピューリタン→バプテスト派
4. 第二ロンドン告白: ウェストミンスター信仰告白との関連



予定論論争における

1. アルミニウス主義とカルヴァン主義
2. 人間の自由意志と神の主権
3. 聖書は神学よりも大きい
4. 両者を包摂していく



簡易信条主義としての

1. 信条
2. 信条主義の教会
3. 簡易信条主義の教会



正統主義神学との連続性をもつ

1. 宗教改革の遺産の体系化
2. カルヴァン→トウレタン→ホツジ
3. ストロング、シーセン→エリクソン

敬虔主義運動の体質をもつ群れ としての

1. 正統主義神学の正統的実践
2. 敬虔主義運動
3. ケズィック運動のメッセージ
4. ウォッチマン・ニー「キリスト者の標準」
 1. ケズィック運動のメッセージとW. ニーの分離
 2. W. ニーの人間論・教会論・終末論等には問題あり
 3. 異端: ウィットネス・リーと日本福音書房



自由教会としての

1. 教会と国家とか明確に分離した社会
2. 独立と自治を有し、目的を同じくする者の自発的共同体



福音主義同盟の一員としての

1. 啓蒙思潮
2. 自由主義神学:「適応・適合」の道
3. 福音主義神学:近代理性との戦い

ローザンヌ運動の推進者としての の



1. プレ・ローザンヌ
2. ローザンヌ会議
3. ポスト・ローザンヌ



序：アイデンティティについて

1. ルーツとアイデンティティの関係
2. 2000年の歴史の中の50年の運動
3. 「十字架と聖霊」：我喜屋師
 1. 十字架とは：義認論・聖化論
 2. 聖霊とは：聖霊論の中の賜物論



十字架のメッセージ

1. スウェーデン・バプテスト: 漸進的聖化論
2. 塩屋の神学校: 危機的聖化の強調
3. 折衷的理解: 「キリスト者の標準」
4. ローカル・チャーチ運動の顕在化
5. 「ウォッチマン・ニー」ブーム去る
6. しかし、敬虔主義運動の遺産の継承は大切



聖霊のメッセージ①

1. 歴史的背景

1. カトリック:
2. 保守プロテスタント福音派:
3. ペンテコステ福音派:

2. 今世紀の展開

1. ペンテコステ運動
2. カリスマ運動
3. 第三の波の運動



聖霊のメッセージ②

1. 表現の多様性
2. (JEC): 「聖霊のバプテスマもしくは満たし」
3. 保守福音派とペンテコステ福音派の真ん中: 二股、架け橋的位置
4. 異言理解: “アバ”意識からの派生語—
霊による祈りと賛美
5. 「聖霊の満たし」の真の目的は何か



序：継承・深化・発展への輪郭

1. 意味ある選択肢、市民権の獲得
2. 神学的特質の確認



聖書的事であること

1. 教派的伝統・特色の盲目的継承ではなく
2. 聖書的事適格性の絶えざる吟味
3. 伝統の良き部分の継承・深化・発展を目指す



共同的であること

1. 分派的・自己流ではいけない
2. つまり(JEC)独自の表現・体験的証しを
3. 教派を越えて理解されうる、包括的な神学の中に位置づけ、表現していく
4. 特に、十字架経験と聖霊経験において
5. 共同性を反映させていく努力
6. そして、次の世代へ継承していく



現代的適応性

1. 聖書の使信をオウム返しで語る: シーセン
2. 今日的情況に即して、新しく語る: エリクソン
3. 集会やムーブメントからの刺激・メッセージの収集とともに
4. (JEC)関連の神学書の収集・継続的研究



自己革新性

1. 非批判的伝統主義ではなく、
2. 「改革された教会は常に改革され続ける」べき
3. 批判的学問性:(JEC)の流れの検証力
 1. 時代遅れのもの、変革すべきもの
 2. 継承・深化・発展させるべきもの



M. J. エリクソンの神学

1. 福音派の神学的座標軸となりうる神学書
2. M. J. エリクソンの組織神学、書籍群
 1. スウェーデン・バプテスト系
 2. 牧会者のハートと神学者の知性
 3. 四つの特質を宿す
3. 福音派のスタンダードとしての
4. カリスマ的なことにオープンなエヴァージェリカルとしての



主要参考文献リスト

- 宇田進『福音主義キリスト教と福音派』いのちのことば社
- 宇田進『現代福音派の神学』「総説 現代神学」熊沢・野呂編、日本基督教団出版局
- 宇田進『総説現代福音主義神学』いのちのことば社
- J. R. W. ストット、宇田進訳『ローザンヌ誓約——翻訳と解説——』
- 安黒務『JECの神学的座標軸』JEC50周年記念誌小論文
- 安黒務『JECの源流と歴史的遺産』JECニュース連載